

カトリック八尾教会ニュース



2023年5月

Tháng năm

こんげつ よてい
【今月の予定】

じかん
ミサの時間

せいぼつき
【聖母月】

7日(日) 復活節第5主日

9:00 ①グループ(A+B 地区+ベトナム1)
11:00 ②グループ(C 地区+ベトナム2+3)
ブロック会議(枚岡教会、13時~)

14日(日) 復活節第6主日
世界広報の日

9:00 ②グループ(C 地区+ベトナム2+3)
⇒信徒総会

21日(日・祭) 主の昇天

11:00 ①グループ(A+B 地区+ベトナム1)
9:00 ①グループ(A+B 地区+ベトナム1)
11:00 ②グループ(B 地区+ベトナム2)

ベトナム語のミサ

15:00 一粒会委員会(司教館、27日13時半~)

28日(日・祭) 聖霊降臨の主日

9:00 ②グループ(B 地区+ベトナム2)
11:00 ①グループ(A+B 地区+ベトナム1)
南地区宣教評議会(玉造教会14時~)

【平日のミサ】 木曜日

10:00

11日、18日(4日、25日はお休み)

※月曜日

10:00

29日(記念日: 教会の母聖マリア)

財務委員会よりお知らせとお願い

令和5年度の維持費献金袋を各自レターケースに配布しています。未備やご質問また、配布のない方は会計までご連絡ください。本年度もご協力をお願いします。

◎一粒会献金について: 集められた献金は22年度仁豊野ヴィラ工事や23年度修道会助成金に充てられています。召命の道を深めていく神学生や引退司祭がより良い環境で暮らし、活動するため使われています。

新型コロナウイルス感染症にともなう措置 (第19次)

<小教区での主日ミサについて>

【基本事項】

①消毒: 希望者が消毒することができるよう、入り口付近に消毒剤を置くことは継続。聖体を授与する司祭や奉仕者が授与の前に、あるいは信者が聖体拝領前に消毒をすることや、ミサ終了後の座席の消毒などは原則不要。

②マスク着用: 原則として任意。ある程度の換気ができ、定員以内の人数で座れる場合で、祈りを唱えるなど通常の会話程度の声量であればマスクの着用は任意。全員で聖歌を歌う場合は、当面はマスクの着用を勧めます。司式司祭や司会者、朗読者はマスクをする必要はありません。

③聖堂入り口に聖水を置いておかまいません。

主日と定められたミサにあずかる義務(教会の五つのおきて第一)の免除は停止。ただし、これまでもそうであったように、病気や止むを得ない事情でミサにあずかることができない場合には出席の義務はありません。

(大阪教区ホームページ、お知らせより一部抜粋)



霊性 (spirituality) (3)

崔 周永神父

ある日、仕事上がり間近に、神経を使うべきメールを書くことになった。定刻に切り上げ、お茶をゆっくり飲んで、エソプレッソのコーヒを飲む、という贅沢は出来ず、1時間半ほどの残業の後、疲れきって自室に帰ってきた。お茶を淹れて飲んで、エソプレッソコーヒも飲んだが体はもう既にその味を十分味わえる状態ではなかった。玉ねぎを電子レンジで蒸して食べ、ご飯にマヨネーズを付けて食べ、納豆で食事を締めくくった。疲れのためか、もう少し食べたくなくなったので、バナナを1つ食べた。好きなYou tube動画を30分と、日本語の勉強のためアニメを1つシャドーイングしながら見た後、少し休んだ。音楽を聞きながら、畳の上で仮眠を取るのだ。9時頃に、疲れはそのまま、何もやらずにもっと休みたかったが、あいにく、この文章を書かねばならなかった。たかがA4紙一枚分量の文章だが、これが実に骨身にこたえる。何故なら、一番疲れている時に容赦なく回ってくる宿題だからだ。

亡くなった父は誠実な人だった。みだりに酒を飲んだりすることもなかったし、黙々と家族のために義務を果たしていた。動物の牛によく似た生き方をしていたのだ。力強いけど、人に逆らうことなく、労働力を提供しては、最後に革とお肉まで捧げる動物のあの牛！昨今の、牢のような所に繋がれて、動けず牛乳を搾られるやお肉のために育てられる牛とは違うのだ。昔の牛は、人間に代わって、大事な労働力を発揮していた。牛は農家の大事な財産で、許可なしに屠畜するのも禁止されていた。亡き父は、自らも、自分を牛と時々言っていた。それを分かり済みでありながら、ずっとずっと誠実な生き方のままだった。犠牲、つまり、いけにえ、捧げものとしての人生だったのだ。

先ほど、少しの休みの後、畳から起き上がる時、苛立ちを感じた。疲れのあまり、十分な休みを与えられてない体が覚える、自然な感覚だろう。だって、休みなしの週がいくつも続いているのだ。心と体は本当に一つであって、この場合、苛立ちを感じているのは心の方ではなく、むしろ体なのだ。丁度その時だった。あるシスターからショートメールが届いた。最初が、「もしかして、食事量の制限があるのですか？あまりにも食べ無さ過ぎるので、もしくは胃袋がないのですか？」とあった。つい笑ってしまった。苛立ちがぶっ飛んだ。小食過ぎの、今の食事の話の説明した。我ながら呆れるほど少食だ。コチュジャンを作ってあげると、シスターから言われた。

正確には、ある恩人が作ったコチュジャンを持って来るとの話だったが、有難いことだ。

亡き父は、自分をいけにえとして、人々に捧げていたのだと最近分かるようになった。良いものがあれば人にあげ、自分は質素な食べ物や衣服で満足していた。困っている人を助けることを怠っていなかった。その辺の話聞く度、子供の私は布団を被ってよく泣いた。あの父は死んだ。父の生き方を、今、息子の私もしているのかな。もっと自由に生きられたのに、何故、あんなふうにしかならないのかと鬱憤ぶっていた子供は、亡き父にそっくりなのだ。

それを霊性と呼ぼう。神様から頂いたお恵みなんだから！

